

CHOHO

長崎大学広報誌 [長報:チョーホー]

2005.October Vol. 13

AUTUMN



特集

[創立130周年記念]

市民と歩む教育学部

[創立100周年記念]

経済学部のこれから～次の100年を目指して～

情報発信はいつも長崎から！

「なにしろ西の果てですから」と言う長崎人が少なくありません。私にはその口ぶりが時には自嘲的に聞こえます。「何をおっしゃいますか、今はともかく、昔は外国に対する唯一の窓口だったではありませんか」という答えを期待しているようにも聞こえます。

私は長崎生まれではありませんが、長崎を愛することでは誰にも負けません。長崎に住み、長崎大学で働くことを何よりの誇りとしています。

最近、私は「ゼヒユロス」という言葉をよく話します。ゼヒユロス（Zepphyrus）はギリシャ神話の「西風の神」のことです。「そよ風がいつぱい」という意味もあります。

長崎大学から発信する情報を「最果ての地長崎から」などと言わずに、西風の神ゼヒユロスが日本全国へ運ぶという意味を込めて使ったらどうかと本学の根本孝幸教授が提唱しています。「気持ちのよいそよ風に乗せて、長崎から」、すばらしいですよー！

さて、文部科学省は「これまで国立大学は研究を重視しすぎて、教育がないがしろにされてきたくらいがある、大学の本来の使命は教育にある」として、2年前から「特色ある大学教育支援プログラム（特色G P）」を公募し、資金支援をしています。私はこの方針に大賛成です。

昨年、長崎大学では「全人的医療のできる医師の育成」が採択されました。今年には去る九月十三日、「へき地を含む地域医療を担う医療人養成」分野で長崎大学の「大学発」病院再生による地域医療人育成」が採択されました。全国に七十九ある国公私立大学医学部（医科大学）のなかで二課題採択されたのは長崎大学医学部だけです。

高野長英、福沢諭吉、松本良順（吉村昭氏の近刊小説「暁の旅人」で最近よく知られています）など昔から長崎は医学を学びたい若者のあこがれの地でした。長崎大学は過去も、現在も、そして未来も元気で、西からそよ風に乗せて全国に情報発信します。全国の若者よ、長崎に来たれ！

追伸：学長メッセージ
<http://www.nagasaki-u.ac.jp> にもアクセスしてご意見をください。
 メールアドレス
 president@ml.nagasaki-u.ac.jp
 必ずお返事します。



長崎大学長
齋藤 寛
 Saito Hiroshi

● CONTENTS

《特集1》市民と歩む教育学部 2

《特集2》経済学部のごこれから 次の100年を目指して 6

《かじこい身体・考》限界に挑む身体 10

《We Love Circle》陸上競技部 11

《長崎大学教育学部附属養護学校》一人ひとりの個性を大切にされた教育活動 12

《留学生のお国自慢》トルコ 12

《古写真・ひと万華鏡》伊藤博文一家族との最後の写真 14

《長大ニュース》 15

《インフォメーション》・《編集後記》 17

◎本紙記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌CHHO○号から」と明記してください。学外の方は、事前に広報企画委員会までご連絡願います。

教育学部
+
経済学部
記念特集

地域とともに
次の100年へ

教育学部
創立
130
周年

経済学部
創立
100
周年



教育学部、経済学部共に記念すべき節目を迎えた今年。これまで両学部は時代と共に歩み、数多くの優れた教育者や経済人を輩出してきました。

この130年、100年という時の流れの中で、「法人化」という体制の面でも大きな変化を遂げた両学部では、次の100年を創る新しい取り組みが始まっています。その軸であり、両学部に通じる言葉は、「大学と地域との連携」、そして「国際化」。創造性豊かな人材の育成や学術研究を進めるため、大学と地域間ではすでにさまざまなコラボレーションの輪が広がっています。

今回は、次の時代へ向かって新しい一歩を踏み出した両学部の最前線をお知らせします。

市民と歩む教育学部

今年創立130周年を迎えた教育学部では、さまざまな取り組みを行っています。その取り組みのキーワードは「市民」。これから教育学部では、多くの市民の方と関わりながら発展していくことを目指しています。今回は教育学部が取り組んでいる活動内容についてご紹介します。



長崎大学教育学部長 橋本 健夫
Hashimoto Tateo

130年の時を経て、 新しい風を教育学部から

日本の学校教育制度が示されたのは明治5年のことです。そのわずか2年後、教育学部の前身である小学校教則講習所が創立されました。以来130年間、我が母校は一貫して学校教育を支える教員の養成を行ってきました。この間に巣立っていった卒業生は約2万5千人。彼らは汗を流し、涙を流しながら子どもたちを育ててきました。その努力の中で育まれた子どもたちは立派に成長し、有能な市民として、この小さな国、日本を世界の先進国に成長させました。先輩方が作り上げてくれたこの輝かしい歴史に感謝すると共に、未来を拓く風を起こしたいと思っています。

昭和20年8月9日に長崎上空で炸裂した原子爆弾は、一瞬のうちに長崎を悲しみの街にしました。母校の長崎師範学校でも多くの先生方や学生が犠牲になりました。被爆60周年を迎えた今年の原爆祈念日には、200人を超える卒業生の方々が、先に逝かれた人々を偲ぶと共に、胸に秘めた思いを誰かに伝えたいと、大学構内の慰霊碑の前に集まりました。この平和を望む人々の純粋な心を、次のそしてその次の世紀に確実に伝えたいと思っています。

さて戦後、大学での新たな教員養成が始まって60年が経とうとしています。学芸学部から教育学部へ、さらに、教育学研究科の設置や新課程の開設など教員養成の充実に向けた様々な試みがなされてきました。この間、社会は裕福になり、価値観の多様化も進みました。それに伴い学校教育のあり方や教員の資質の向上について議論が盛んになってきました。

長崎大学教育学部では、創立130周年をきっかけに附属教育実践総合センターを改装して「シンフォニー」と名付け、学校の先生方や市民の方々と一緒に教育を考える空間にしたいと考えています。現在、多くの方々が積極的に利用していただけるように準備を進めています。

市民の皆さん、教育学部の教職員や学生と共に、未来の教育について存分に語るうではありませんか。

創立130周年 教育学部の主な取り組み内容



長崎大学教育学部
創立130周年

「130周年ロゴマークの作成」

教育学部では創立130周年を記念し、「130」マークを作成しました。「130」の数字を90度回転させて「机で本を読んでいる人」に見立てたユニークなデザインです。教育学部が発行するポスターやパンフレットなどに使用されています。

「さまざまなイベントを開催」

教育学部では「学外」「学内」「国際」という3つの視点からさまざまな分野でイベントを開催しています。イベントを通して教育学部の学生や教職員、地域の人々とのコミュニケーションを図り、教育学部に親しんでもらおうと企画しています。教育学部の将来について市民のみなさんと一緒に考えていくきっかけの場となることを期待しています。

学外開放
イベント

学内
イベント

国際交流

学外開放
イベント

その①

サイエンスワールド

教育学部では平成15年から科学と技術に関わる公開イベントとして「サイエンスワールド」を開催しています。今年には創立記念事業の一環として、9月23日(金)、文教キャンパスでの恒例開催に加え、県下各地(5月平戸、7月五島、10月有馬)での出前開催もしています。このイベントは、「大学が保有する教育資産を、学生や子どもを含めた多くの皆さんにできるだけ分かりやすく系統的に開示することが目的です。また、学生のための教育的側面と、大学の地域貢献的側面が含まれていることも大きな特長です。さらに、地元企業や地域の教員へも参加を呼びかけ、教育に関わる人的ネットワークも広がりつつあります。このイベントを通して、大学と地域社会とのふれ合いの場が提供されるとともに、子どもたちには、科学することの楽しさや夢が育まれています。

学外開放
イベント

その②

美術ワークショップ

長崎大学教育学部は長崎県美術館と連携し、美術館のアトリエで美術ワークショップの共同企画・運営を行っています。今年8月9日(火)、諫早市立上諫早小学校の6年生を美術館に招待し、スクールプログラム「Peace(ハッピース)」を実施しました。これは「8月9日、ハッ

サイエンスワールド



何ワット?(人力発電に挑戦)

美術ワークショップ



8ピースカードの制作風景

出前音楽教室



学生による打楽器演奏法の勉強会



あなたの血管は?(老化と血管)



8ピースカードと子どもたちとの写真撮影



熱心にヴァイオリンの音を耳を傾ける子どもたち



ペットボトルを溶かして糸を作ろう



最後に8ピースカードの展示



相浦小学校高島分校の子どもたち

学外開放
イベント

その③

出前音楽教室

130周年の記念事業の一環として、教育学部音楽専攻の学生と教員が県内の小中学校に出かけ、教室コンサートやコーラス、吹奏楽のワークショップを行っています。8月19日(金)、教員と学生計7名が佐世保市立相浦小学校高島分校に向き、「出前音楽教室」を行いました。高島分校は全校児童12名。しかし、昔から「潮風バンド」という金管楽器バンドがあるほど、児童も保護者も音楽活動に熱心な小学校です。文化的な機会に恵まれることが少ない離島の子どもたちに、いろいろな音楽に触れてもらおうと行われたこの教室では、学生と教員による金管楽器やヴァイオリン、ピアノのソロやアンサンブルなどの演奏が行われました。その他、打楽器の演奏法の勉強、金管楽器のレッスンが行われ、最後にサンバのリズムに合わせた合奏を全員で楽しみました。

学内
イベント

その①

リレーシンポジウム 「教育を語る」

全4回行われたこのシンポジウムは、「子ども」「学校」「親」というテーマについて、「教育活動に携わっている方の視点」「教育行政の視点」「大学の視点」から専門のパネリストがリレー式で語るシンポジウムです。創立130周年を記念して行われたこのシンポジウムは、語られた意見を今後の教育学部の教育活動に活かそうと開催されました。

参加者は学生や一般市民、教育・学校関係者など幅広く、シンポジウムではパネリストと参加者それぞれが抱く「教育への思い」についての意見発表がありました。「大人が変わらなければ子どもは変わらない」「体験していないことは行動できない」「心の居場所の必要性」「今は先生・学校への期待が不満となっている」など、中には提言とも受け取られる教育への熱い思いが発表されました。



教育に関するさまざまな分野のパネリストが意見を発表

参加者からも質問が飛び交った

会場となったシンポジウム会場入口に学生と子どもが遊べる「子どもの遊び場」が設置され、参加者から好評を得ていました。



約400名の学生や市民が参加

リレーシンポジウムテーマ

- 第1回「子どもを語る」(4月30日)
- 第2回「親とおとなと家庭を語る」(6月25日)
- 第3回「学校を語る」(8月20日)
- 第4回「子ども・親・学校を語る」(9月24日)

学内
イベント

その②

ランチタイム コンサート

昨年12月より始まったランチタイムコンサートが、6月3日(金)、10日(金)、17日(金)、24日(金)の計4回、文教キャンパス内の学生プラザ多目的ホールで開かれました。

これは、芸術表現講座の学生及び大学院生が中心となり企画・出演するコンサートです。留学生や教員も演奏に参加し、回を重ねるごとに聴衆も増え、ホールには立ち見客も出るほどの人気があります。楽器の独奏やアンサンブル、音楽の演奏もあり、リラックasできる25分間。地元テレビ局のニュースにも取り上げられ、今ではお昼タイムのちよつと変わった大学開放イベントとして定着しつつあります。

※次回は10月と12月に
コンサートが予定されています。
詳しくは、音楽教育講座の
ホームページをご覧ください。
<http://www.n-music.net/>



学生による声楽



学生によるアンサンブル



ホールには立ち見の聴衆も出るほど盛況でした。



韓国との音楽交流

「2台ピアノの夕べ」

長崎大学と学術交流協定を結んでいる漢陽大学校（韓国・ソウル）の金明瑞（キム ミンス）教授を迎えて、堀内伊吹教授との2台ピアノによる演奏会が開かれました。曲目にはモーツァルト、シヨスタコーヴィチ、ラフマニノフの代表的な2台ピアノ曲が生まれ、迫力あるアンサンブルが披露されました。会場となったブリックホール国際会議場は、約500人の聴衆で埋めつくされ、熱気に包まれました。韓国からは漢陽大学校総長ご夫妻も出席され、音楽による国際交流の発展をたいへん喜ばれていました。



教育学部の玉園同窓会会長

宮地さんへのインタビュー

宮地会長は、昭和30年に学芸学部（教育学部の前身）を卒業し、現在長崎大学教育学部の玉園同窓会会長を務めるかたわら、教育学部生の教員採用支援として面接試験対策に携わり、教職に対するアドバイスなどを行っています。さまざまな教育現場に触れ、活動された会長に、現在の教育学部や教育現場の実態、そして教育学部生をどのように感じていらっしゃるのかをお聞きしました。

Q 少子化問題やゆとり教育など現在の教育現場を取り巻く環境についてどう見ておられますか？

A 少子化は教員を目指す学生にとって深刻な問題です。これにより教員採用の枠が狭まり、教員になりたくてもなれない点が昔と非常に大きく異なります。

また、現場で子どもたちに「体験活動」の機会を豊かにし充実させることが、極めて重要な課題となっている反面、子どもの基礎学力の低下が問題になっていますよね。現在の教育のあり方は、一方を優先させると一方がおろそかになり、「子どもを教育しづらい環境」と言わざるをえません。

Q 「今後求められる教師像」とはどんなものでしょうか？

A 私の学生時代に比べると、今の学生は恵まれた環境で育ったせいも、たくましさやや欠けると思います。人と真正面からぶつかることを避けているように感じます。例えば、学生の教育実習の時など、子どもたちと土にまみれて遊びながら、教えることがなかなかできていませんね。実際、こういう気質は現場で求められているのですが、教員になつたからといって、簡単に身に付くものではありません。「子どもたちと一緒に汗を流して何でも学んでいける先生」になるためには、学生の時からいろいろな経験を積みなければいけません。

Q では、具体的に教育学部ではどのような取り組みを行っているのでしょうか？

A 現在教育学部では複式学級※や附属以外の小中学校での実習を設けています。現場に出る前にたくさんの経験ができるうえ、教育の視野が広がり、教採※の面接対策にもなるので学生にはこういう場をフルに活用してほしいものです。大学教員の方の中には教採対策の補習や講習会に取り組んでおられる方がいます。しかし、教採対策に関しては学生と大学教員が一緒になって厳しい教員採用の現実を受け入れて、その対策をもっと考えてほしいと思っています。

Q 最後に、教員を目指す学生にアドバイスをお願いします。

A 初めは熱心に教員になりたいと志して教育学部に入學した学生も、教員になりにくい時代を見越して、企業へ就職を希望したり、教採を一度も受けずに卒業するケースが多くなっていることを非常に残念に思います。

しかし、教員養成課程の門をくぐったからには、教員への道をあきらめず、可能な限りの努力をしてほしいと思います。努力の過程で得た発見や知恵を、みなさんが教育現場で活かしてくれることを期待しています。

※複式学級：複数の学年クラスを合併して1クラスにした学級。離島などに多い。

CHOH11号附属小学校のページを参照。

※教採：教員採用試験



教育学部 玉園同窓会
会長 宮地 計
Miyachi Hakaru

経済学部のこれから

～次の100年を目指して～

今年創立100周年を迎えた経済学部では、これからの経済学部について、学部長と学生との座談会を開催しました。めまぐるしく変化している日本の情勢を踏まえ、参加者が長崎大学経済学部に対するさまざまな思いを語り合いました。



東條 正 [Tojo Tadashi]
長崎大学経済学部長

創立100年の伝統

山口 今年経済学部は創立100周年を迎えましたが、そのことについてのどのような考えをお持ちでしょうか？

学部長 経済学部は1905年(明治38年)に誕生しました。その年はちょうど日露戦争が終わった年です。その頃は日本の経済が活発になり始めた時で、新しい企業もどんどん増え、それに伴って有能な人材が必要になった時代です。そういう時代背景のもと、長崎大学経済学部が誕生し、100年間産業界をリードする人材を輩出してきたことを誇りに感じて良いと思います。

高田 100周年という節目の時に自分が卒業できることをうれしく感じています。同時に、経済学部はこれからも発展していかなければいけないと思います。卒業しても同窓会に参加し、何らかの形で経済学部に貢献していきたいですね。

二俣 瓊林会館にある有名な企業人の

方々の写真を見ると、100年の伝統に驚かされます。今、県外で活躍されている方々が私と同じ学部で学んでいたことを思うととても感激ですね。特に経済学部を卒業されたアサヒビール会長の福地茂雄さんはとても印象に残りました。

独創性のある学生を育てる

「学ぶ喜び」の体験

山口 学部長はこれからの経済学部の教育方針などについてどのようにお考えですか？

学部長 もともとは企業管理者などを養成する目的で学生を教育してきたわけですが、100年の間で経済の動きが大量生産時代からリサイクル時代へ変わったように、人材育成のあり方も今の世の中に対応したものでなければいけません。

今の若い人のほとんどは抽象的概念とか難しい言葉を避ける傾向が見られます。昔の学生は「わからない言葉がある＝恥」という思いで勉強をしていたようですが、今は「自分の興味を中心に視野を広げ学ぶ」という勉強のスタイルが変わっているのではないのでしょうか。こういう点で学生の意識が変わってきているとすれば、教える側も柔軟に教え方を変えていくべきだと思えます。

山口 具体的にはどうしたらよいのでしょうか？

学部長 学生が自分で視野を広げて学びたいと思うようになるには、「学ぶ喜び」を感じる必要があります。「学ぶ喜び」とは、わからなかったことがわかったときの感覚のことです。例えば私は「寅さんにもわ





瓊林会館の外観



新郷 正良
[Shingo Masayoshi]
経済学部4年(出身:佐賀県)



二俣 ひな子
[Futamata Hinako]
経済学部4年(出身:沖縄県)



高田 諭
[Takada Satoshi]
経済学部4年(出身:福岡県)



司会・進行 山口 純哉
[Yamaguchi Junya]
長崎大学経済学部助教授(地域経済論)

かる講義」をモットーに授業を行ってきま
した。難しい用語をかみ砕き、わかりやす
い言葉に置き換えて、誰でも理解できるよ
うな授業内容にしています。「なるほど、こ
ういうことだったのか」という感覚を味わ
いさえすれば、学生は自らいろいろなこと
を学んでいくようになると思います。

山口 「学ぶ喜び」ということについて学生
のみなさんはどう考えますか？

二俣 私は「学ぶ喜び」が本当に大切だと、
ふと感じたことがあります。ずっと授
業で疑問に思っていたことが、3年生の
頃、ふっとわかった時があったんです。そ
の時の感動が忘れられず、それ以来何に
でもトライしたくなりましたね。まだ「学
ぶ喜び」を知らない人が自分と同じよう
な経験をすれば、もつと大学生活が充実
するのではないかと思います。

新郷 「学ぶ喜び」を得るためには1・2
年次のゼミの段階で考える力を身につけ、
3・4年次にそれを活かして専門分野を
じっくり学ぶカリキュラムが必要だと思
います。今のカリキュラムでは1年次の
ゼミ期間が短いので、専門分野に触れる
時間をもつと設けると、「学ぶ喜び」が4
年間でたくさん得られると思います。

高田 私は「学ぶ喜び」を研究を積み重ね
ていく過程で得ています。いわゆる「達成
感」によつてもつと知りたいという意欲
をかきたてられていると感じます。また、
進行中の研究について先生からアドバイ
スをもらった時も「学ぶ喜び」をたくさん
得ているように思います。

学部長 「学ぶ喜び」を見出すことがで
きれば、探求心はどんどん広がるはずで

す。壁にぶつかる時もあると思いますが、
みなさんには常に「なぜこうなるのか」
とか、「これ以外に方法はないか」という
問いかけを自分に課してほしいのです。
それは、将来どんな職業に就こうとも必
要になる「獨創性」を生むためのトレーニ
ングになるからです。これから経済学部
では、専門の基礎知識や「獨創性」のある
人間をバランスよく育てるカリキュラム
なども考えたいと思います。

経済学部と地域について
〜地域振興にタイアップ〜

山口 以前から経済学部は市民にとつて敷
居が高く、また、どんな研究をしているのか全
くわからないようです。今後はそれをどう取
り扱い、情報発信をしていくべきでしょうか？

新郷 学生が主体となり、地域とのコミ
ュニケーションをはかることも可能だと
思います。経済学部の中には、現在はまだ
小さいのですが、経済に関するさまざま
な取り組みを地域の方と行っている団体
があります。「コミュニティビジネススク
ウェアながさき」「まちづくり屋」「やるバ
イ！就活宣言2005プロジェクト」(※
次ページ参照)などです。こういう場は経
済について実践的な見方を学び、地域の
人とも接することができるため、両者に
とつてお互いを知ることができるよう機
会になっています。

高田 私は「大学」自分の考える力を養
う場所であり、「地域」いろいろな考え
方を学ぶ場所であると考えます。地方に
おいても大都市においても、地域は大学
に在るだけでは学べない経済の現状を多
く発見できる場です。私はこれからもい

※瓊林会館 「瓊林」は、雪を被った光り輝く林の意味
で、その林を成している数多くの木々はどれを見ても
すべて「玉」で、いわゆる玉石混淆ではありません。
大正8年、橋本喜造氏の寄付によつて建てられた。現
在では会議室、瓊林会、東亜アジア助成会の事務所が
置かれている。

ろい地域と積極的に関わりたいと思
っています。

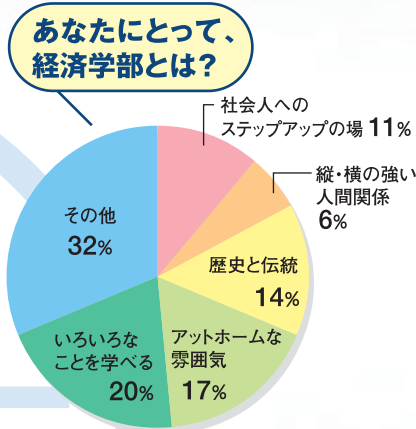
学部長 そうですね。これからは経済学
部も今まで以上に地域や同窓会、父兄の方々
と協力していくことを考えています。特
に今の経済学部の学生は九州出身者が大
半なので、九州全体を眺め、学生のみなさ
んの意見を取り入れながら今後どう地域
と関わっていくか、地域振興にどうタイ
アップしていくかを考えていかなければ
いけません。全体として、経済学部は地域
に何を求めているか、また逆に地域は経
済学部は何を求めているのかを改めて考
える必要があります。ただ、大学としても
地域の全てのニーズに答えられるわけ
はないので、企業のように戦略をきちん
と立てて地域とうまく関わる必要があり
ます。経済学部は100年続いた伝統あ
る学部であり、これまで日本の経済を支
えてきました。しかし、今からはこの伝統
に溺れることなく、きちんと将来の展望
を掲げていくことが次の100年を築く
うえで大切な事だと思っています。

山口 世の中の環境が急激に変化してい
る時代について地域のみなさんと考える
ことが大切ですね。いろいろなご意見を
ありがとうございます。

経済学部100人に聞きました!

経済学部の在学生在、在學生と卒業生に「経済学部について」のアンケートを実施。経済学部で過ごした学生生活を振り返ってもらいました。

在学生アンケート



■総合経済学部なので、興味のあるコースを吟味して選択できたこと。(3年男)

■経済学部バスケット部で学んだ精神。この精神は社会に出て「社会の厳しさや目上の方を尊敬する大切さを忘れるな」という自分への教訓として胸に刻みたい。(4年女)

■一生懸命勉強に取り組む大切さはもちろん、レポートの書き方、パソコンの使い方など、将来役に立つ事をたくさん学べた。(3年女)

■図書館で読んだ「現代用語の基礎知識」がさらに経済学への興味を高めてくれたこと。(4年女)

■キャンパスが文教と離れていることがとても残念。(4年男)

■ゼミで普段会うことができない方々と出会えたこと。(3年女)

■いろいろな分野でがんばっている人と出会え、自分にプラスの刺激を受けたこと。(3年女)

■かけがえのない人間関係を築けたこと。経済学部の縦のつながりは本当に強いと感じた。(4年男)

■経済学部の部活に所属し、ここならではの伝統・礼儀を受け継いだこと。(4年男)

経済学部の学生生活で印象的な事は?

■3年次に始まるゼミで税に関する深い知識が得られたこと。(3年男)

■現ゼミの担当教員に出会ったことで、これからの自分の進むべき方向を見つけることができた。(4年男)

■経済学部の学生活動を通して瓊林会の方とも交流が持て、いろいろな話をする事ができたこと。(4年男)

■いろいろな講義を積極的に履修したことで、「自ら行動する大切さ」を学べた。(4年男)

■経済祭に出店したゼミの屋台。(4年男)

開かれた経済学部を目指して

学生と市民、そして経済学部をつなげるネットワーク構築を目指し、経済学部生が中心となって取り組んでいるさまざまな活動の一部をご紹介します!

経済学部生 奮闘記!

学生による課外活動

CBSN

(「コミュニティビジネススクウェアながさき」)

経済学部の地域経済論ゼミナールに所属する学生4名が、県内のNPO法人を対象に「まちづくりに関するアンケート調査」や、まちづくりのための研究を行った事がきっかけで誕生した「コミュニティビジネススクウェアながさき(CBSN)」。

CBSNは毎月1回、まちづくりに関する市民団体や個人を対象として、定例会を開いています。県内のネットワーク構築や、人々がまちづくりに取り組むやす

くするため、の基盤作りが行われています。今後、も地域活性化を目標としたさまざまな活動が行われる予定です。



今回の定例会

まちづくり屋

まちづくり屋は、長崎に住む学生が中心となり結成された団体です。長崎に数多くある、魅力的な資源を県内外の人に発信する活動を行っています。

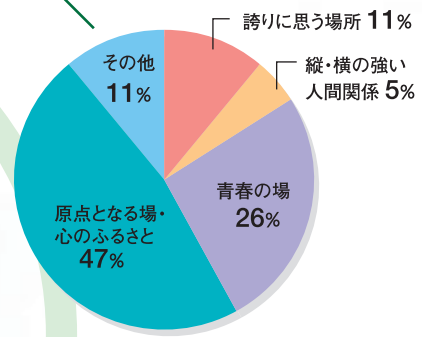
その主な内容は、長崎グッズの企画・販売、そしてイベントの企画・実施などです。昨年度は長崎グッズ開発第一弾の取り組みとして、長崎名物を取り入れた「カステラねくたい」を企画販売し、「まちづくりフォーラム」を開催。グッズの完成までには、専門用語の理解や製造元との打ち合わせなど、慣れない部分での苦労が多くある反面、地元の方と交流を通じて、今まで知らなかった長崎の魅力を知る機会に恵まれていきます。まちづくり屋には大学生活で体験できない魅力がたくさん詰まっています。



カステラをモチーフにしたネクタイ。シンプルなかわいらしさが人気を呼んでいる。

卒業生アンケート

あなたにとって、
経済学部とは？



経済学部の学生生活で
印象的な事は？

- グリーククラブ(男性混声合唱団)に所属したことで縦と横の人間関係に恵まれた。(S 32卒・男)
- 生涯の道楽「囲碁」に出会えた。(S 30卒・男)
- 経済学部構内にあった自彊寮が火災に遭い、最後の寮生の一人になったこと。(S 41卒・男)
- 戦争で卒業が6か月繰り上げとなり、学徒出陣したこと。その際、戦場で約30名の友人を失った。(S 18卒・男)
- 飲み会が多い学部だったが、その鍛錬が社会人生活で大いに役立っていること。(S 63卒・女)
- 苦手なドイツ語の試験を多くの友人のおかげで合格になったこと。(S 54卒・男)
- 私が入学したときから制服・制帽が国防色になり、スマートさがなくなったこと。(S 19卒・男)
- あるきっかけでフランス語に興味を持ち、学部生の頃1年間履修。定年退職後の現在もフランス語を続けている。(S 30卒・男)
- 旧制最後の卒業生だったこと。病み上がりになり友人の誘いで水泳大会に参加した際、胃がいれんを起こし、その後4年間その発作に悩んだ。(S 26卒・男)
- 敗戦後迎えた「日本列島超貧困時代」の学生だったこと。生きるため、アルバイト優先、学業軽視の生活を送っていたので、現在は生涯学習でその時に得ることができなかったことを挽回中。(S 26卒・男)
- 入学早々、外国観光船の外国人と初めて英語でコミュニケーションができたこと。(S 45卒・男)
- 少人数だったゼミで出会った先生に現在もお世話になっていること。(S 48卒・男)
- 友人に誘われて参加した学生運動のデモで「わだつみの歌(反戦歌)」を高唱したこと。(S 28卒・男)
- 10人の仲間と「ケインズ理論」の勉強サークルを作り、自分の下宿で毎週、会を開催したこと。(S 32卒・男)
- 戦中、戦後の混乱期に学生生活を送ったので、充分な学習ができなかったこと。卒業式当日、最も尊敬していた教授が、「社会人になってからの学習の大切さ」を説かれました。それを今でも心にとめています。(S 22卒・男)
- 恩師であった故川崎文治との出会い。現在でも続く川崎ゼミ(青洲会)の絆の強さが誇りです。(S 35卒・男)

やるバイー就活宣言2005プロジェクト

「やるバイー就活宣言2005プロジェクト」は長崎大学と長崎大学生協の協力のもと、長崎県内の大学4年生が中心となって、大学3年生の就職活動をサポートしています。

現在は長崎の他、九州地区(北九州、福岡、熊本、鹿児島)と相互に連携をとりながら活動中。今年度は就職に向けた「意識改革」をコンセプトとし、就職相談会やグループディスカッション、合同企業説明会の場を設けています。

これからの自分の視野を広げながら就職活動ができる場を提供したり、参加者が自分のキャリアについて考えながら、就職活動を行うためのきっかけを提案していきます。



合同企業説明会の企画会議

クローズアップ!

親子2世代、
経済学部出身です!

長崎市築町にある、からすみの老舗「高野屋」。こちらの13代目昌明さんと息子の正安さんは、2世代揃って長崎大学経済学部の卒業生です。長崎高等商業学校(※)時代からの伝統に魅せられて入学を決定したという昌明さんは、当時所属していた山岳部を中心に、そして息子の正安さんはラグビー部を中心に、大学生活を謳歌していました。

「勉強も部活も当時の大学生は楽しみなが、とことん熱中したのですが、今の学生さんはおとなしい。足を使っているいろんな活動をするのに学生時代は最適だと思いますよ。活動をすることで友人からたくさんの影響を受け、自分がやりたいことを発見することができます。それが大学生生活を充実させる秘訣です。」と、高野さん親子は現役学生にエールを送っていました。



高野正安さん(左)と高野昌明さん(右)親子。「何らかの活動をしていると、そこで常識や上下関係も学べます。」と、昌明さん。

※長崎高等商業学校
戦前の経済学部の前身。

かしこい身体考

からだ

第3回 「限界に挑む身体」

◆ 火事場の馬鹿力

とつぎの場合に自分でも思いもよらない能力が発揮されることがあります。昔から「火事場の馬鹿力」といわれ、夢中になってタンスを担いで逃げ出したなどという話をよく聞きます。本当にそのようなことがあるのでしょうか。タンスを担ぐほどはないでしょうが、人間は特殊な精神状態に陥ったときに想像以上の能力を無意識のうちに発揮し得るのです。そのメカニズムは「心理的限界」と「生理的限界」の違いにあります。

◆ 心理的限界と

生理的限界

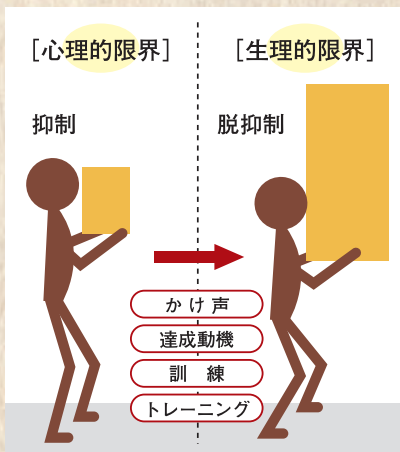
誰でも握力を測った経験があるのではないでしょうか。その時にはおそろしく顔を真っ赤にして力いっぱいレバーを引いたと思います。そのような場面を「自発的意志による最大努力の状態」といい、その測定値を「意志による最大

能力」といいます。実は、それは「心理的限界」なのです。本当の限界ではありません。様々な実験によると、「かけ声」を出したり、「暗示」をかけたりすると筋力や持久力は約20〜30%高まるということが明らかにされています。この場合の測定値を「真の最大能力」あるいは「予備能力」といいます。握力であれば、精一杯努力して40kgであったものが、からだの側には50kgまでは発揮できる能力が備わっていることとなります。

どうしてこのようなことが生じるのでしょうか。図に示しましたように、自発的な意志による最大努力は、高位中枢の脳皮質の働きによる「抑制」状態にあるのです。理由は、運動によって身体の安全を損なうような強烈な負荷がかかるのを防ぐための仕組みであると考えられています。しかし、緊急の場合や競技大会など、時と場合によっては本能的な中枢の働きが上回って、



無意識のうちに抑制を取り払う「脱抑制」が生じて、残されている予備の能力まで引き出されることとなります。また、この現象は疲労しているときほど大きいことから、疲労も抑制の原因にあげられます。



◆ 限界に挑む身体

限界を超えることはできませんが、高めることはできそうです。まずは心理的限界を高めましょう。心理的限界は、「ここまでしかできない」と自分自

身で決めている限界です。したがって少しだけ高い目標やもう少しの辛抱や努力で生理的限界に近づくことができます。まさに「気合」が必要なのです。生理的限界は、からだそのものが変わる必要があります。そのためには身体的トレーニングが必要でしょう。

気をつけなければならないのは、高い意志や予備知識があっても、関節や靭帯など肉体そのものが脆弱化していれば「ぎっくり腰」のような破綻を生じるということです。これを「肉体的限界」と言います。身体トレーニングは自分のからだだと相談しながら挑戦しなければいけません。

教育学部教授
(生涯学習教育研究センター長)

小原 達朗
Obara Tatsuro

《専門分野》
運動生理学・
トレーニング論



九州の大会でも 渡り合える実力養成、 チーム作りが今後の目標。

0・1秒、0・01秒の差が勝負の運命を左右する陸上競技。長崎大学にもこの陸上競技に熱い意志を持って挑む約60人のアスリートたちがいます。

現在、長崎大学陸上競技部は秋に行われる九州学生陸上競技対校選手権大会、九州学生駅伝大会に向けてトレーニングの真っ最中。ほぼ毎日練習に励むメンバーは、これから秋・冬に向けて走りこみや筋力トレーニング中心の練習メニューに切り替え、体力を増強していきます。今年の春と夏のインカレでは優勝や入賞を勝ち取った選手も多く、九州大会でもようやく「長崎大学」の名が定着してきました。

「陸上の醍醐味はなんと言っても結果が数字になって表れるところ。大会で0・01秒でも自己ベストを更新した時が陸上をやってよかったと思える瞬間です。」と語るの、陸上競技部主将の佐々木太



▲長崎大学陸上競技部



▲陸上競技部主将 佐々木さん

陽さん(経済学部3年)。大会では常に自分との戦いがあるようですが、団結力の強いチームのおかげで、プレッシャーよりも「勝ちたい」という気持ちの方が不思議と上回るのだそうです。

「陸上はほとんど個人に順位がつく競技だけに、速い記録を持っている人は勝ち誇ったり、変にプライドを押し通したりしがちですが、ここにはそういうメンバーっていないんです。中堅のメンバーが記録を更新した時でも、全員で喜び合える仲なのが陸上競技部最大の自慢ですね。スポーツにスランプは付きものですが、本人がスランプに気づくよりも先に仲間がそれに気づくことの方が多い。いつもみんながお互いをフォローし合っているから、大会でも焦らずに挑むことができます。」「と佐々木さん。

陸上で培う強い精神力は勉強でも活かされています。1日でも体を全く動かさなければ、以前の調子を戻すまでに3日はかかると言われる陸上の世界ですが、メンバーはテスト期間中でもうまく時間を見計らいながら、30分でも走るように心がけているそうです。

今年春に陸上経験のある新生を迎え、ますますチームの実力が向上してきました。今後は、九州外の陸上名門大学にも堂々と肩を並べられるよう、これからもチーム一丸となって走り続けます。



長崎大学教育学部附属養護学校

一人ひとりの個性を大切にした教育活動

◎全児童生徒に個別の教育支援計画を作成し、
個々のニーズや発達に応じた教育活動を展開しています

自信と

希望と

勇気と



小学部/Shougakubu

「意欲づくり」



中学部/Chugakubu

「基盤づくり」



高等部/Koutoubu

「適応づくり」

留学生の

お国自慢



オスマン・トゥンチュ・チェティンカヤさん
OSMAN TUNC CETINKAYA
長崎大学大学院 生産科学研究科 環境システム科学専攻



日本の国土の約二倍の面積を持つトルコは自然環境が日本とよく似ています。また東西からさまざまな文化が合流する国の一つです。トゥンチュさんは日本とトルコの文化についてどのように感じているのでしょうか？

Q1

日本に留学を決めたきっかけは？

土木技術者を目指してイスタンブールの大学に通っていた時に、日本の土木技術が大変優れていることを知りました。トルコと日本には四季があり、自然災害が多いなどの共通点があります。しかし、日本の関東地方は地震が多くても人口が集中していますが、トルコの大都市は自然災害の多い地帯を避けるように国土の周辺に広がっているのです。このような違いを土木建築の面から研究するため、留学を決意しました。

Q2

日本に来て三年目ということですが、日本の生活には慣れましたか？

一番苦労したのは日本語の勉強でした。日本では英語が通じるものと思っていたので日本語の勉強をせずに留学生生活を迎えたのです。しかし、いざ生活が始まると日本語を

教育相談



子どもたちの発達や子育ての悩みをともに考える場として「のびのび教室」を開催しています

交流学习



地域との連携を深め、ともに生きる社会への参加をめざします

卒後支援

将来の教育者を育てるとともに、大学との共同研究による成果を教育活動に生かしています

卒業後の就労や生活のアフターケアや余暇活動を行っています



大学と連携

学校公開



第1回学校公開(運動会)	5月
第2回学校公開	6月
第3回学校公開(文化祭)	10月

◎相談・問い合わせ先 TEL.095-845-5646
ホームページ <http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/school/smr/>

身近な生活において、
自分なりに考え、
自分から行動しようとする
意欲を育てます

自分の生活や
周りの社会に目を向け、
行動の仕方や感動する心など、
生きる力の基盤をつくります

自分を見つめ、自分で考えて
行動する力を高め、
自立的な社会参加を
めざします



トルコの風景とトゥンチュさんの家族



食事の時は家族一緒に楽しい時を過ごします。

Q4

トゥンチュさんのこれからの目標を教えてください。

まずは在学中に「橋」について研究し、将来は「これは私が造った橋だ！」と胸を張って言えるような技術者になることです。しっかりと技術を身につけていけば国の境無く、土木業に携わり、活躍できると思います。できればトルコで自分の力を発揮したいと考えています。

トルコでは日常的に近所の世帯同士でトルコ料理を振舞うなどの交流が行われています。しかし、日本の場合はお酒を交わしながら個人レベルでお互いを語り合うという機会が日常的ではないでしょうか。研究室の仲間とお互いの考えを深め、語り合うことで気持ちがいらいらとできていくと感じます。ただ、近隣の方との交流がないことは少し残念に思います。

Q3

トルコの人々はとても人の交流が盛んと聞きましたが…。

トルコでは日常的に近所の世帯同士でトルコ料理を振舞うなどの交流が行われています。しかし、日本の場合はお酒を交わしながら個人レベルでお互いを語り合うという機会が日常的ではないでしょうか。研究室の仲間とお互いの考えを深め、語り合うことで気持ちがいらいらとできていくと感じます。ただ、近隣の方との交流がないことは少し残念に思います。

古写真

ひと
万華鏡②

伊藤博文

―家族との最後の写真―

〔環境科学部 若木 太一教授〕

旧千円札で見なれた明治時代の政治家伊藤博文（一八四一―一九〇九）とその家族の写真。これは一九〇九年（明治四十二年）八月、大磯の自宅で静養中に撮影された。

この写真撮影の二か月後、伊藤はハルビン駅で韓国の独立活動家、安重根（アン・ジュングン 一八七九―一九一〇）の銃弾を受けて死に至る。これは彼にとつて最後となつた家族写真である。

「激動の時代を駆け抜けた伊藤博文」

伊藤は一八四一年（天保十二）すおうのくにくまげ、周防国熊毛郡東荷村（山口県）に農民林十蔵の子として誕生。十三歳の時に毛利家の連歌小使を務め、十七歳から吉田松陰しやういんの松下村塾くまげで学び、幕末から近代への激動の時代を生きた。

伊藤は若くして尊皇攘夷運動の志士たちと交友を深め、井上馨かみさらと英国留学を経て開国論を唱える。明治維新後は新政府の官僚として活躍。一八七一年（明治四）から岩倉具視ともみの欧米使節団に加わつて欧米の法制度を学び、木戸孝允・大久保利通らと共に近代化を推進した。一八八五年（明治十八）十二月、太政官制を廃止し、内閣制を定めた伊藤は、帝国議会で初代の総理大臣に選ばれた。その後枢密院議長となり、憲法と皇室典範を起草。一八八九年（明治二十二年）二月十一日に大日本国憲法を制定し、立憲政治の基礎を築いた。

その五年後の第二次伊藤内閣時に朝鮮支配をめぐり日清戦争が勃発。さらに第三



長崎大学附属図書館蔵 NO.69-14 写真サイズ：縦7.9cm×横7.5cm

伊藤六十九歳、ややつかれた様子で藤椅子に座っている。向かつて右はその夫人梅子、後に立っているのは息子の博邦である。博文と夫人の中に立つのは孫の博精（博邦の長男）、夫人の膝の団扇に手をおいているのは博春（博邦の二男）である。これは伊藤博文とその家族の最後の写真である。

※この写真は、昭和六十三年度から平成十三年度にかけて、長崎大学大型コレクションとして収集されたもの一つです。

「伊藤博文、暗殺」

一九〇九年（明治四十二年）九月二十九日、伊藤は首相の桂太郎を訪問し、ロシア蔵相ココフツエフと極東問題、特に韓国支配に関する日本の意向を伝えるため、ハルビンへ立つことを告げた。大連を経て十月二十五日に長春に到着。翌日午前九時、伊藤はハルビン駅でココフツエフらの歓迎を受けた。伊藤はロシア守備隊を閲兵し、各国領事と握手を交わした。しかしその直後、日本人歓迎者の方に向かった伊藤は躍り出た暴漢にピストルで撃たれた。冒頭に記した安重根に狙撃されたのである。

銃弾を受けた伊藤は応急手当を受けたが、三十分後の午前十時に息を引き取った。享年六十九。伊藤は国葬にふされたが、安重根はロシア官憲に捕らえられ、翌一九一〇年（明治四十三年）三月に処刑された。



大病院行きバス

「元気くん」が運行開始

六月一日(水)から、長崎大学医学部・歯学部附属病院構内へのミニバス(愛称「元気くん」)の運行が開始されました。このバスは、大橋バス停とJR浦上駅方面から本院医科・歯科の各診療棟正面玄関前までを循環します。病院が小高い丘の上であり、既存の停留所から坂道が多いなど、診療に来院される方に不便をかけていたため、今回長崎自動車株式会社のご協力により実現しました。今後は来院者及び教職員



大病院行きバス「元気くん」

が大いに利用することを望むと同時に、「元気くん」による本院のPR効果も期待されます。

附属学校で不審者侵入

合同避難訓練を実施

長崎大学教育学部附属小学校、中学校、幼稚園の三校園は六月三十日(木)、浦上警察署生活安全課の指導・協力のもと、不審者侵入合同避難訓練を実施しました。

この訓練は、附属中学校正門から侵入した不審者が二階の学級教室に入る寸前で発見され、複数の職員によって教室への侵入を阻止されるという設定で行われました。小学校と幼稚園では不審者が移動して



不審者を足止めする教職員

来た時の避難訓練を行い、最後に訓練時の教職員や園児、児童・生徒の動きが迅速でよかったとの評価をいただきました。

本学医学部保健学科徳永瑞子教授が フローレンス・ナイチンゲール 記章を受章

記章を受章

七月八日(金)、医学部保健学科の徳永瑞子教授が、第四十回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章しました。同章は、看護師に与えられる世界最高の栄誉あるメダルで、特に傷病者や(身体)障害者、または紛争・災害の犠牲者に対して献身的な活動を行ったり、公衆衛生、看護教育の分野で顕著な活動や創造的・先駆的貢献を果たした正規看護師・篤志看護補助者に贈られます。徳永教授は助産師として、コンゴ民主共和国の医療過疎地における母子保健指導や栄養失調児への医療活動のほか、エイズ患者支援のNGOを立ち上げ、それに関するさまざまな医療支援活動などを行っています。



医学部保健学科
徳永瑞子教授



フローレンス・
ナイチンゲール記章

インターナショナル・ カルチャー・デーを開催

カルチャー・デーを開催

長崎大学は七月十六日(土)、本学の留学生と地域の子どもたちとの交流を深めようと長崎大学留学生協会(NUFA)主催のイベント「インターナショナル・カルチャー・デー」を文芸キャンパス中部講堂で開催しました。当日は夏の暑い日差しの中、子どもたちや地域住民など約三〇〇名が訪れました。

ワールド・フード・フェスティバルでは、インドネシアやマレーシアなど留学生が作った世界五か国の家庭料理が出され、カルチャーショーでは留学生や一般学生、そして同大学周辺の小学校の児童と地域住民による歌や音楽、舞踊などが披露されました。



留学生たちと記念撮影をする齋藤学長(中央)



平成十七年度長崎大学 オープンキャンパスを実施

七月二十三日(土)、受験希望者等を対象としたオープンキャンパスを「文教キャンパス」、「坂本キャンパス」、「片淵キャンパス」の三つのキャンパスを会場として実施しました。

九州・山口を中心に各地から集まった高校生は、三キャンパス合わせて約三、〇〇〇人。各学部の全体説明会



パネル展示と説明

の後、高校生は模擬講義や公開実験、パネル説明会などに参加しました。参加者の多くが長崎大学の魅力を感じ取ってくれたようです。



学部ごとの概要説明

新興・再興感染症研究拠点 形成プログラムに採択

長崎大学は、文部科学省の「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に応募し、七月二十六日(火)に採択されました。長崎大学以外の採択は、東京大学、大阪大学及び北海道大学の三大学です。

このプログラムは地球規模で猛威を振るう新型肺炎(SARS)や、鳥インフルエンザ、コレラなどの新興・再興感染症制御のための研究拠点を国内外に形成し、我が国の研究者が

恒常的に現地で研究を行うことができる体制を整備するものです。

長崎大学ではベトナムの国立衛生疫学研究所に共同研究実験室を設置し、日本からの研究者を常駐させ、感染様式・感染ルート の 解 明 や 臨 床 研 究、研究者の育成を行います。



ベトナム国立衛生疫学研究所

長崎大学記者クラブと 長崎大学との懇談会を開催

七月二十六日(火)、第二回長崎大学記者クラブと長崎大学との懇談会が開催されました。この懇談会は、長崎大学記者クラブ十三社の記者の方々に対し、本学の取り組みについて一層の理解と協力をいただくために昨年度から開催しているもので、今回が二回目となります。

懇談会の前には、附属図書館貴重資料展示室等の見学が行われました。懇談会では意見交換が行われ、今後、長崎大学の情報発信機能の充実を図るにあたって有意義なものとなりました。



懇談会風景

台湾海洋大学と 学術交流協定を締結

八月九日(火)、台湾海洋大学(台湾)の黄榮鑑学長以下三名の関係者が長崎大学を訪問し、学術交流協定を締結しました。調印式終了後、それぞれの大学の概要説明があり、今後の活動等について活発な意見交換が行われました。これにより長崎大学が海外の大学等研究機関と締結している学術交流協定は七十件となりました。



協定書交換後握手を交わす齋藤学長と黄学長

このほか、長崎大学のニュースは、長崎大学公式ホームページでご覧いただけます。

<http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

教育学部創立130周年、経済学部創立100周年、両学部の記念事業を特集しました。

両学部とも多くの有能な人材を輩出してきたこれまでの歴史と伝統を振り返り、これからの100年、未来に向けてのメッセージや抱負が語られています。

激動する世の中、今後も地域への貢献はもちろんのこと、国際的にも活躍できる多くの有能な人材の育成に期待がかけられています。

本誌では創刊以来、長崎大学が世界に誇る古写真を紹介しています。前号から、人物に焦点をあて、「ひと万華鏡」としてシリーズ化することにしました。

歴史はひとによってつくられるものです。人物を通して歴史をながめることで、あらたな発見があるかもしれません。

【編集・発行】

長崎大学広報企画委員会
(広報誌企画・編集専門部会)

TEL. 095-819-2014

FAX. 095-819-2024

(E-mail)

www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

【発行日】

2005年10月1日



古紙配合率70%再生紙を使用しています。

Information

参加無料

10/15 SAT

「夢・化学-21 化学まつり」～君も今日1日、科学者になろう～を開催

簡単な実験を通して、化学の不思議な世界を楽しみませんか？
今回は、講演会(午前)と体験実験、展示会、研究室開放(午後)を行います。
対象は、小学生、中学生、高校生及び一般の方です。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】10月15日(土)10:00～12:00(講演)、13:00～16:30(実験展示等)

【場所】長崎大学工学部材料工学科、応用化学科学生実験室、総合教育研究棟3F大講義室

【参加要領】事前申し込み不要

【問合せ】長崎県理科・化学教育懇談会(長崎大学内) 庶務幹事 森口 勇(長崎大学大学院生産科学研究所助教)
E-mail: mrgch@net.nagasaki-u.ac.jp

「長崎大学コラボ産学交流会2005」を開催

長崎大学工学部から産業界に向けての情報発信イベントです。大阪及び福岡の2会場で開催します。

10/21 FRI

福岡会場

【日時】10月21日(金)13:00～

【場所】八重洲博多ビル11FホールA&B

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-18-30

11/11 FRI

大阪会場

【時間】11月11日(金)13:00～

【場所】チサンホテル新大阪4FルームNo.3

〒532-0011 大阪市淀川区西中島6-2-19

【問合せ・申込先】長崎大学工学部総務係 TEL:095-819-2489 E-mail:collabo_eng_@ml.nagasaki-u.ac.jp

11/17 THU

11/20 SUN

学園祭へおでかけになりませんか

今年の学園祭のテーマは「Laugh&Peace」。各学部、各サークルが多彩な個性を発揮して、日頃の研究や鍛錬の成果を表現します。市民の皆様にも楽しんでいただけるものをめざしました。お誘い合わせて、ご来学ください。

【場所】長崎大学文教キャンパス、坂本キャンパス、片淵キャンパス

【学園祭HP/URL】<http://www.gakusai-nagasaki.com/>

11/19 SAT

「学生ものづくりアイデア展in長崎」を開催

参加無料

【日時】11月19日(土)13:00～18:00

【場所】長崎大学総合教育研究棟

【参加要領】事前申し込み不要 【主催】長崎大学工学部、新潟大学工学部、富山大学工学部

平成17年度長崎県「土木の日」を長崎大学工学部が主催団体の一つとして開催

下記のとおり、「土木の日」のイベントが行われます。市民の皆様のご参加をお待ちしています。

11/12 SAT

テクノパワー
おもしろ体験隊

参加無料

【日時】11月12日(土)13:00～16:00

【場所】長崎大学文教キャンパス中部講堂前広場

【その他】小学4、5、6年を対象としていますが、保護者の方も一緒にどうぞ。申し込みが必要ですので、下記にお問い合わせください。

◎「土木の日」おもしろ体験隊係

TEL:095-819-2626

11/18 FRI

吉村作治氏(早稲田大学教授)
記念講演会

参加無料

【演題】「ピラミッドの謎ー石と文化と土ー」

【日時】11月18日(金)18:00～19:30

【場所】長崎市民会館文化ホール

【その他】申し込みが必要ですので、下記にお問い合わせください。

◎アド・フォース「土木の日」記念講演係

TEL:095-826-1008

11/19 SAT

11/20 SUN

パネル・模型展

【日時】11月19日(土)・11月20日(日)

【場所】長崎市浜町

「ベルナード観光通リアーケード内」

【その他】ご自由にご覧いただけます。

11/20 SUN

JRで行く旧国鉄近代化
遺産見学ツアー

参加無料

【日時】11月20日(日)10:00～16:00

【場所】JR長崎駅～早岐～長崎駅

【その他】募集人員50名(子どもだけの参加は中学生以上)申し込みが必要ですので、下記にお問い合わせください。

◎旧国鉄近代化遺産見学ツアー係

TEL:095-819-2626



附属図書館に
公開貴重資料展示室を開設

長崎大学附属図書館では、所蔵する貴重資料を一般に公開しています。(前日までに予約が必要)

【見学時間】9:00～17:30(土・日・祝日を除く)

詳細については、ホームページでご確認ください。

<http://www.lib.nagasaki-u.ac.jp/>

lb は、アルファベットのエル・ビーです

表紙について

【ANNIVERSARY+祝】 ～見方を変える～

長崎大学教育学部
情報文化教育課程芸術文化コース(絵画)
4年 宇戸 由美子

「今年、教育学部と経済学部がそれぞれ記念すべき年を迎えたということで作成しました。」と話す宇戸さん。その時にひらめいた言葉が「祝」という文字だったそうです。はじめは“祝”の文字をデザインしようとして、その文字ばかりを見ていたのですが、試行錯誤を繰り返すうちに、もっと別の視点から文字を見るべきでは?と考えるようになったと言います。最終的に、単に漢字一文字にこだわるのではなく、英語の「ANNIVERSARY(記念)」と掛け合わせる発想にたどり着きました。それは、“祝”の“兄”の部分が“R”とよく似ている事に気づいたからなのだとか。

はじめに「ANNIVERSARY」の文字をパーツに分けて作成し、それぞれを組み合わせて「祝」の一文字を作ったこの作品。宇戸さんは「見方を変えると意外な面白さを発見でき、とても楽しく制作することができました。」と話してくれました。

